



米

中干し管理について



川根営農経済センター
松浦 雅晃

中干し作業により、良品質のお米が実る稲の体格作りを行います。倒伏を抑制し、目標収量を確保しましょう。

《中干しの目的と効果》

- (1) 水を切ることによって生育を抑え、茎数過多を防ぎます。葉の垂れを防ぎ、株内に光が入るようにしましょう。また、下位の節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
- (2) 土中に酸素を補給し、根を活性化させます。
- (3) この時期に干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、収穫作業がスムーズに行えます。

《中干しの開始時期》

有効茎数（2葉以上ある茎）が、平均して20本程度になったら中干しを開始します。中

干しの目安は、田植え後30〜40日です。

《中干しの程度》

- (1) ほ場や品種、天候によって異なりますが、7〜15日間実施します。田面に軽くヒビが入る程度行いましょう。
- (2) 砂質土壌では軽めに行うか、間断かん水とします。

※水はけの良い水田での強すぎる中干しは、稲体を弱める要因となるので注意しましょう。

《中干し後の水管理》

中干し後の水管理は、3〜4日程度で湛水と落水を繰り返す間断かん水を行います。その後、幼穂形成期から出穂期は常時湛水状態に保ってください。特に晴天日が続く場合は、こまめな水管理が必要です。

《中干し期の除草》

ノビエと広葉雑草の防除にクリーンチャーバスME液剤または、トドメMF乳剤を散布してください。充分落水して、散布後3日間は晴れる日に行い、3日間は入水しないようにします。

《ケイ酸の補給》

稲はとてもケイ酸が必要な作物です。ケイ酸は光合成を高め、茎尻を強くします。中干し時に歩きやすくなったなら、ケイ酸加里プレミアを40kg/10a施しましょう。